

<h1>HOMAS</h1> <p>日本語版 ニュースレター</p>	<p>No. 68 平成 25 年(2013 年)3 月 15 日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫</p>
	<p>発行所 〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 7 丁目 道庁別館 12 階 TEL011-231-3392 FAX011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail homas @ siren.ocn.ne.jp</p>
<p><i>Hokkaido Massachusetts Society</i></p> <p>北海道・マサチューセッツ協会</p>	

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち(23)

「北前船」交易の歴史と蝦夷地に繁栄をもたらした豪商たち - 北海道航路の船主たち - 錢屋五兵衛・高田屋嘉兵衛・小納宗吉 他 -

<2回に分けて掲載します。今回は「北前船」の概説とし、北海道各港に繁栄をもたらした船主たちは次回に譲ります。>

まえがき

今日の歴史ブームの中で、マスコミ報道や各地の地域振興策として、昔の多くの人物や歴史の事実が誇大にとりあげられ、その偉大さを強調している傾向があるように思われます。こうした商業主義に流されることを懸念しています。ここではしっかりと資料を読み込み、確かな歴史を掘り起こしていきたいと考えています。

時代背景

日本海は、世界的視野では小さな海です。大西洋の属海カリブ海約半分の広さでありました。また、内海である地中海の3分の1の広さしかない。もともとは、アジア大陸の東縁部であった陸地が数千年前に陥没して内海となり、やがて海峡によって外海と通じるようになった海といわれます。間宮海峡、宗谷海峡、津軽海峡、対馬海峡、関門海峡の五つの海峡があります。日本海峡には、対馬暖流が日本列島沿いに北上し、やがて冷やされてリマン寒流となって大陸沿岸を南下するという海の道があり、古くから人々の往来・交易が発達してきたようです。

今回は、この日本海を主な舞台とした交易の歴史、特に近世から近代にかけて、北海道から本州の各港を経て大阪の間を往還した、ニシン(鯨)×粕・昆布や米・木材などを運ぶ大動脈の主役「北前船」(きたまえぶね)に、スポットをあててみたいと思います。この北前船の存在なくしては、蝦夷地開拓も大阪の昆布の食文化も育まれなかったでしょう。そしてまた、昆布は、薩摩藩の財政を潤し明治維新へのパワーを蓄積させたといわれています。

蝦夷地(北海道)の近代化は、明治政府の開拓使設置(1869年<明治2年>7月)によって本格的にすすめられますが、この開拓使時代以前の、北前船交易による日本海沿岸各港町の繁栄の歴史をたどってみたいと思います。

北前船の歴史

北前船(きたまえぶね)は、江戸中期に発生し、明治30年代まで大阪と蝦夷地を結ぶ日本海航路に就航した廻船です。一枚帆の大きな白帆に風をはらみ、季節風と潮流に乗って日本海を往来したのでした。1639年(寛永16年)加賀藩3代当主前田利常による大阪への藩米輸送が西回り航路の最初であったといわれます。

北前船は、大阪から瀬戸内海を経て、北陸・東北の木材や米穀などを蝦夷地に輸送、そして蝦夷地からは干魚・塩魚・魚肥(ノ粕)・昆布などの海産物を上方に運びました。

上方から北海道へ向かう船には、塩・鉄・砂糖・綿・反物・畳表・苧などの雑貨も積み込まれ、これを「下り荷」とよびました。大阪から北海道へ向かう船は、大阪を出ると瀬戸内海の各港で特産品などを買い入れ、四国の金毘羅様に参詣してから、下関をまわって日本海にでて、山陰地方や若狭・越前の各港で商売をしながら北上し、能登から佐渡や新潟、酒田などを経て、順調なら半月ばかりで松前三港(箱館、福山、江差)の入港したようです。三港には、沖口番所があって、出入港取締りがありました。航路は次第に北上して、小樽をはじめ遠くは利尻島などにも行く船が多くなったようです。北海道から大阪へ向かう船は、「登り荷」と呼びました。これは、積荷の売りさばきは瀬戸内海に入ってからが主で、松前を出たら一気に佐渡を目指し、能登、隠岐と飛び石に渡って下関から瀬戸内海に入る場合が多かったようです。

当時、荷主の依頼によって荷物を運送するのを「運賃積み制」と呼びました。そして船主が荷主をかねて、港々で商売しながら運航する形態を「買積み制」と呼びました。北前船は、運賃で利益を稼ぐ太平洋側の「運賃積み」とは異なり、船頭の才覚で、安く仕入れた品を別の場所で高く売り捌く「買積み」制が主流の廻船でした。

船には、特に定まった船型はなく、「北国船」「大和船」「ドングリ船」などがあり、特に安永～寛政年間から増えはじめた「弁財船」がよく知られています。弁財船は、厚い船底板を基盤とし、幅の広い板を組み合わせて外回りを作り、内側に多数の船梁を入れて船体に強度を持たせた構造です。さらに日本海の荒波を乗り切るために、船首の反りがより大きくなり船底をより厚い堅牢な造りとした、日本海沿岸特有の北前型「弁財船」となりました。

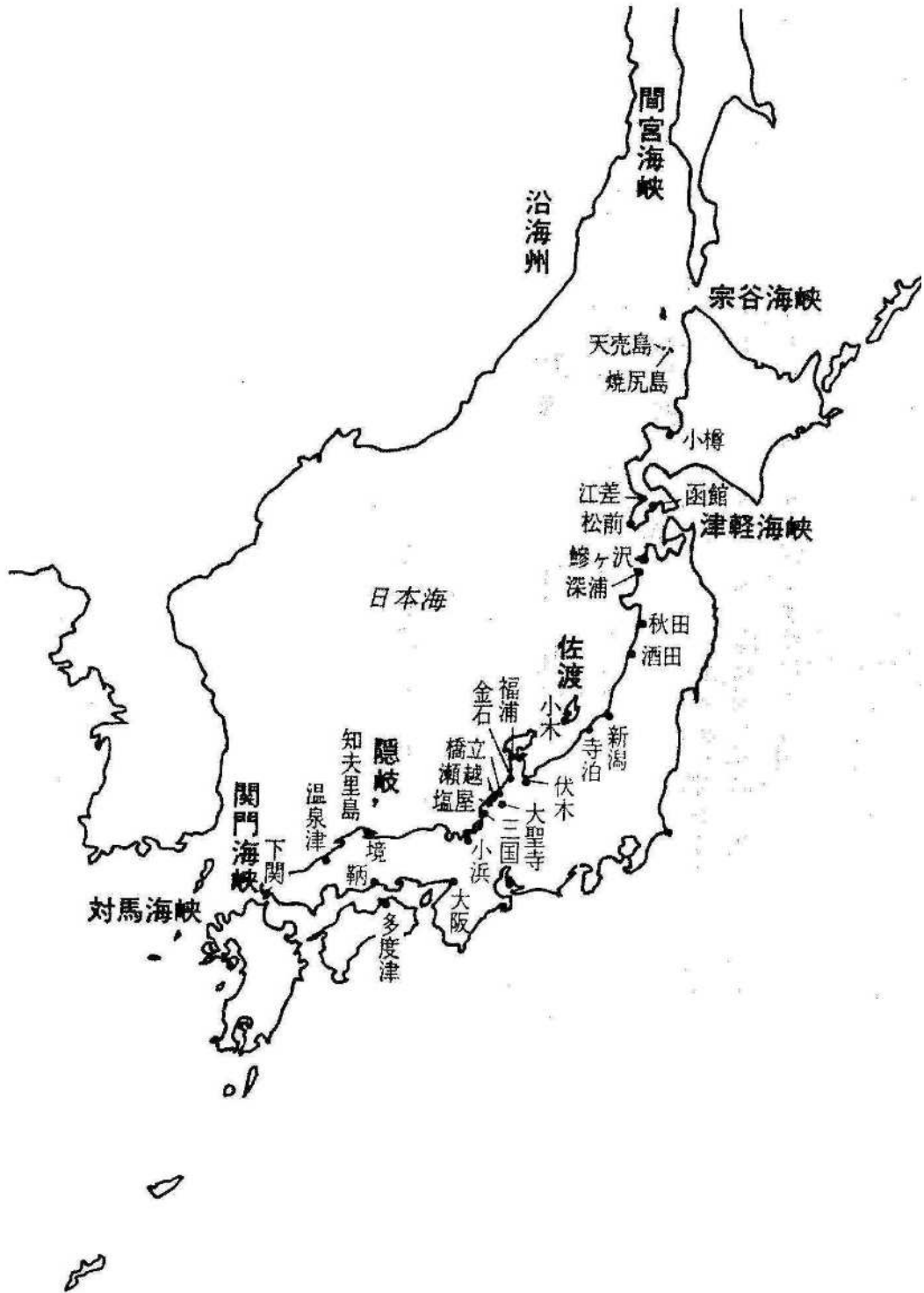
この北前船に使用された「弁財船」は、千石船といわれていますが、実際は300石～800石船が一般的だったようです。(高田屋嘉兵衛の辰悦丸1500石は、きわめて特殊な大型船といえます。)

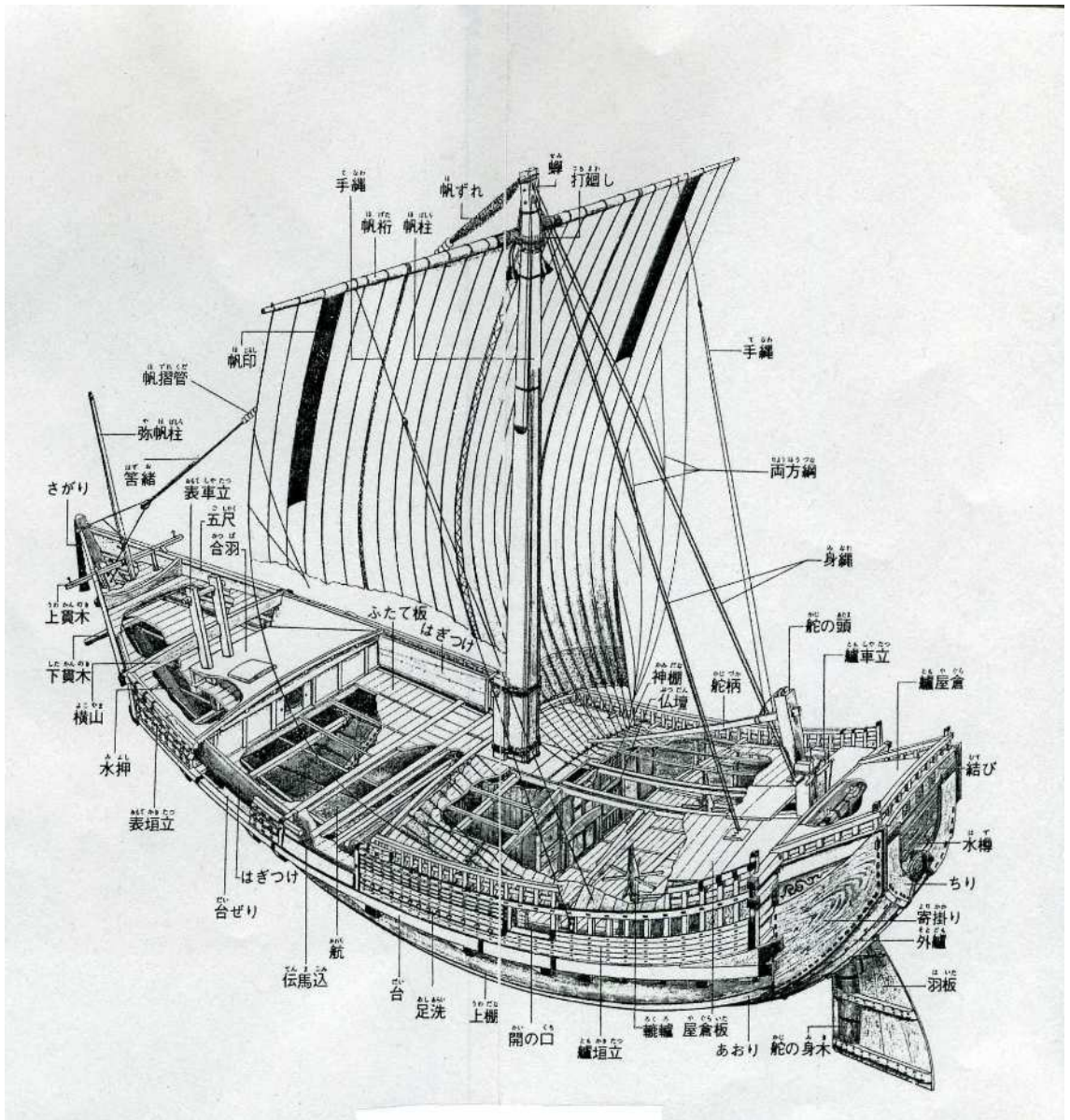
北前船経営の利益はとて大きく、利益10割以上といわれ、700石船の往復で2千～4千両の純利益があったとされます。利益10割つまり倍儲かる「バイ船」とも呼ばれました。弁財船の建造費は、千石船で約千両と概算されていますので、日本海の荒波を乗り越える航海の危険もありますが、その原価償却は1航海で可能であり、大船主は1年で20万両という大きな利益をあげ、「豪商」の地位を築いた例もあったようです。

北前船の船頭は、小規模経営の船主が直接経営にあたるのは「直乗船頭」とよばれますが、一般的には大船主が雇用する「雇船頭」が多かったようです。1カ年の給料は賃積船で35～50両であったのに対して、北前船ではなんと3両程度でした。それには「帆待(ホマチ)」という別途収入が約束されていたからでした。ホマチは、北前船では船主から公認されたもので船主荷物の1割にあたる分を、船頭個人の荷として買積みすることが許されたものでした。船頭の裁量により各寄港先で販売した帆待荷収入は、1年間2往復4回の取引で600両～800両にもなるもので、「船頭」にとってこの帆待収入は、将来船持ちにも成長できる魅力あるものであったといわれます。また、「知工」以下以下の船乗りたちにも、船主の積荷の約1割が「切出し」として別途収入が認められていました。

北前船の乗組員は、千石積みの船で14人くらいとされ、船での役割(階層)が下記のように決まっています。

炊(かしき)	炊事・雑用
若衆(わかいしゅう)	航海作業一般
親父(おやじ)	若衆の現場指揮
片表(かたおもて)	表の補佐





「日本海繁盛記」(高田 宏著 岩波新書)より転載

表 (おもて)	航海士
知工(ちく)	事務長
船頭(せんどう)	船の最高責任者

船中では米・みそ・薪は船主持ちで、副食は船乗りの負担でした。食事は、賄いのチーフ「親父」の指図で塩・たくあん・みそを主として作られたようです。時には自分たちで獲った魚を食べることもあったようです。食事は舳の間で一緒にたべますが、「船頭」だけは二畳くらいの小さな特別の部屋を持ち、神棚や仏壇もありました。飲料水は一番大切なもので、トモの最後尾の大きな水桶に入れていました。また船中には特別なトイレはなく、多くは外艫(最後尾で楫のあるところ)のあたりで海中に落としたようです。

北前船の運航は、旧暦3月～8月の間、2往復を定法とし、秋～冬は荒海をさけて、大阪の木津川・敦賀・出雲崎などで冬囲いと称して、その間は翌年の海あけにそなえて、船の修繕にあてています。

こうして、長い航海を終えて大阪に戻った北前船の船頭や船乗りたちは、船の繋留・冬囲いを終えた後、早春に来た道を逆に歩いて郷里の北陸路へ戻ったのでした。その年の航海の無事と商売の成功を感謝しながら、家族への土産物を詰めた柳行李を背負っての晩秋の帰宅となったようです。

北前船が運んだもの

海上の道が唯一の交通輸送手段であった時代に、北前船の海上交易によってもたらされたものは、食料・衣料・家具や調度品などの生活物資だけではなくありませんでした。蝦夷の各港に定住するようになった商人たちによって、上方・北陸などを基調とした日本文化・伝統芸能などがもたらされ、蝦夷地(北海道)発展の基盤が形成されていきました。いわば、「日本海ハイウエー」を上下した北前船は「板子一枚下は地獄」といわれた命がけの航海でしたが、その代償として巨万の富と文化を蝦夷地に運んだ宝船だったといわれます。

あとがき

この「北海道開拓の基礎を築いた指導者たち」シリーズの原稿執筆にあたり、毎回多くの資料を読みながら、その濃密な歴史に感動しています。

今回のテーマ「北前船」が運んだ「ニシンメ糟」や「昆布」の背後にある、北海道日本海岸の「ニシン漁の隆盛」、「昆布ロード」の歴史などについては、とてもここに簡潔にまとめることができませんので、次回に譲ることとし、稿を改めたいと考えています。

北太平洋を回遊するニシンは春になると南下し、やがて日本近海に姿を現します。特に江戸時代後期から明治にかけては、北海道の日本海沿岸部に大量に押し寄せ、産卵のために海岸を真っ白にして群来(くき)てくる、ニシン大漁の最盛期を迎えたのでした。各沿岸には、本州各地から集まった労働者が寝泊りする「番屋」が建ち並びました。また、このニシン千石場所として賑わった各地の港には、街並みや商家もできて、その発展隆盛の象徴として、「にしん御殿」と呼ばれる豪壮な建物が建てられたのでした。

しかしニシンの不漁が続き、番屋も次々と姿を消して、いつかその賑わいも去り、こんにちでは、各地の「にしん御殿」だけが往時の活気を伝えるものとして保存されています。(執筆担当：中垣正史)

<主な参考文献及び参考資料>

「北前船の研究」 牧野隆信著 法政大学出版局 1989	「北前船 日本海文化と江差」 江差町教育委員会編 北前船編集委員会発行	「日本海繁盛記」 高田 宏著 岩波新書 1991	「新版 北前船考」 越崎宗一著 北海道出版企画センター 1972
「日本海こんぶロード 北前船」 読売新聞北陸支社編 能登印刷出版部 1997	「北前船長者丸の漂流」 高瀬重雄著	「ほっかいどう百年物語」 STV ラジオ編 中西出版	各地の現地リサーチ資料 インターネット資料など

平成24年度 第3回 国際交流ランチセミナー記録

～ひなまつりパーティー・異文化交流の昼食交流会～

日時 平成25年3月3日(日) 11時00分～14時00分
 会場 すみれホテル 2Fレストラン「ルピナス」(中央区区北1条西2丁目)

(ゲスト)				
Allen Paul Heffel	アレン ヘッフェル	札幌市在住者英語講師	(アメリカ)	M
SHAW Yvette Danielle	ショー イベット	小樽商科大学留学生	(ニュージーランド)	F
ROULHAC, Marie	ルラク マリー	小樽商科大学留学生	(フランス)	F
黄 健志 Koh Kenji	コー ケンジ	千歳市教育委員会 ALT	(カナダ)	M
蔡 辰雪 Cai Chenxue	ツァイ チョンシュエ	札幌大学留学生	(中国)	F
謝 瑩 Xie Ying	シェ イン	札幌大学留学生	(中国)	F
Kristen Fredrich	クリスティン フドリック	千歳高校 ALT	(アメリカ)	F
Allie Manydees	アリー メンディーズ	千歳市教育委員会 ALT	(アメリカ)	F

概要: この国際交流ランチセミナーは、2001年(平成13年)から、広く多国籍の外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の楽しい時間を共有しています。今回は、「ひなまつり」をテーマとしてゲスト8名をお迎えしました。今回は「お雛さま」を飾り、「うれしいひな祭り」もみんなで歌いました。このセミナーは、今回で34回目です。参加者は、合計35名でした(通訳は、会員の岩崎修子さんをお願いしました。)ここには、ゲストの挨拶スピーチの概要をご紹介します。



1 アレン・ヘッフェル(アメリカ・男性・英語講師) <日本語スピーチ>

私は、米カリフォルニア州出身です。アメリカでは、あまり「ひな祭り」に似たような行事は無いと思います。子供の成長を祝うというのは「誕生日」くらいですね。日本に来てから4年になりますが、日本では「子供の日」とか「ひな祭り」とかあるので、楽しそうだなと思っています。(ちょっと損をした気がします…笑い。)ですからいつも「鯉のぼり」とかをみると、なぜかテンション

ンがあがります。すばらしい行事だなあと思っています。今日は楽しんでいます。ありがとうございます。

2 イベット・ショー(ニュージーランド・女性・小樽商大留学生)

みなさんこんにちは。イベットと申します。私はニュージーランドから来ました。アレンさんがおっしゃったように、ニュージーランドでも「子供の日」や女の子の「ひな祭り」のような日はありません。子どものお祝いといえば、多分誕生日とクリスマスくらいですね。

でも、日本に來まして、様々なお祝いの行事やお祭り、祝日があるのを知って、少し羨ましく思っています。ニュージーランドでもあればいいなあと思います。この事をお話しなければならないのは少し悲しいのですが…実は私は、明日はニュージーランドに帰らなければなりません。一年間の交換留学期間が終了したからです。ですから、今日ここに参加して、皆様と「ひな祭り」を祝うことが出来て、とてもうれしく思っています。今日はお招きいただきありがとうございました。

3 マリー・ルラク(フランス・女性・小樽商大留学生)

私はフランスから参りました。でもすみません…パリからではありません。南フランスですが、多分その市の名前は皆さまご存じないと思います。でもプロバンスで勉強していました。プロバンスは日本でも有名なので、皆さまご存じかと思います。

イベットも言っていました、フランスでも、「ひな祭り」のようなお祭りはありません。日本では、このようなお祭りで皆さんボランティアで協力していますが、素晴らしいことだと思います。

私が日本に來た理由のひとつでもあるのですが、このようなお祭りやパーティを経験することで、日本の文化や生活習慣などを深くを学ぶのに役立つと思ってます。今日はありがとうございます。

4 黄 健志 コー ケンジ(カナダ・男性・千歳市教委ALT) <日本語スピーチ>

私は、前回参加したときには、ケルビンウオンと言う名前を使っていたと思うのですが、今回は「黄 健志」という名前を使っています。本当は、「ケルビン・ウオン」といいますが、漢字が「黄」なので、日本社会で暮らすために漢字の名前を使うといいなと思い、通称名として使っています。英語で話しかけるときはケルビンと呼んでください。日本語では「健志」でも良いです。

さて、「ひな祭り」ですけれど、残念ながらカナダでは、子供の成長をお祝いするようなお祭りはありません。やはり、誕生日とクリスマスくらいですね。家族によっては、成績が良ければご褒美として楽しいところに連れて行ってあげたりする例はありますが。個人的には、日本に「ひな祭り」とか「鯉のぼり」の子供の日などのお祭りがあってほんとにうれしいなと思っています。アレンと同じように、ずっと日本に暮らしていけたらいいなと思っています。今回再びお招きいただきましてありがとうございます。

5 葵 辰雪 ツアイ・チョンシュエ(中国・女性・札幌大学留学生)

皆さまこんにちは。中国から参りました、ツアイ・チョンシュエと申します。故郷はウルムチで新疆ウイグル自治区にあります、こちらからはとても遠いところにあり、6時間ほどかかります。

皆さんがおっしゃったのと同様、私の故郷でも女の子のお祭りというものはありませんが、「女性の日」というのがあります。「子供の日」もあります。でも申し訳ないですが、なぜか「男性の日」はありません。「女性の日」には、女の子は学校に行かなくてもいいですし、女性は仕事に行かなくてもいいのです。子供も女性もその日が大好きです。…今日は、お招きありがとうございました。

6 謝 螢 シェ イン(中国・女性・札幌大学留学生)

皆さまこんにちは。私は、中国の四川省から参りました。四川省はおいしい果物と美しい景色で有名なところです。友人も言いましたが、女の子のためのお祭りというのはありませんが、「子供の日」

はあります。私が子供のときは、学校でいろいろな行事が行われ、子供たちはダンスをしたり、歌ったり、ゲームをしたりして楽しい時間を過ごしました。時には両親からプレゼントをもらうこともありました。また両親と外出して、おいしいものを食べたりして子供の日を祝いました。でも、もうずいぶん昔の話です。今はもう子供ではないのですが、こうして「ひな祭り」をお祝いできるのはうれしいです。今日は、お招きいただき感謝しております。ありがとうございます。

7 クリスティン・フレドリック(アメリカ・女性・千歳高校ALT)

皆さまこんにちは。私は、米国オレゴン州のポートランド近郊の小さな町から参りました。ポートランド市は札幌市の姉妹都市ですので、ご存じのかたも多いと思います。

アメリカでも、やはり「ひな祭り」に似たようなお祭りはありません。子供のためのお祝いをする日としては、「誕生日」や「卒業式」だと重みます。それで、このような日本の文化について学ぶのは、とても興味深いです。というも(ひな人形を指さして)「これは何?何のためにあるのだろう?」と様々な祝日やお祭りを通して、日本の文化についてもっと深く学ぶことが出来るからです。今日はお招きいただき、本当にありがとうございました。

8 アリー・メニディーズ(アメリカ・女性・千歳市教委ALT)

アリーと申します。私も千歳から参りました。アメリカ、コロラド州出身です。ボールダーは皆さんご存知かもしれませんね。ロッキー山脈で有名です。でも私はスキーはしません。

皆さんがすでにおっしゃったように、アメリカには子供のためのお祭りはありません。誕生日と卒業のお祝いをします。でも、私はネイティブアメリカンですので、私たちの文化として、年に2、3回パウワウに行きます。「パウワウ」は集会というか、「お祭り」ですね。みんなで集まり、伝統的な衣装を着てダンスをします。子供たちもドレスアップして、特別なダンスを踊ります。私たちの伝統文化では子供たちを大切にします。ここが日本と同じ点だと思います。でも、私たちにもこういう可愛い「ひな人形」があればいいのになあと考えています。今日はありがとうございました。



“HINAMATSURI” Dolls’ Festival
2013 HOMAS International Exchange Luncheon

～スプリングフィールド市との20年、そして未来へ～

「僕たちは感謝の気持ちを忘れません。これは僕たちが将来へ踏み出すための1歩です。」ジュニア大使訪問団員の班長が1週間の滞在の感想を述べました。

第22回目を迎えた本年度は10月17日～24日の7泊8日間の日程で中学生4名、高校生2名、団長1名、随員1名の合計8名を派遣し、スプリングフィールド市（以下：ス市）並びに隣町であるロングメドロー町（以下：ロ町）を訪問。ロングメドロー高校での授業体験、心温まるホームステイに加え、ワシントンD.C.でアメリカの建国の歴史を学ぶなど、参加者に大きな感動を与え、将来の夢や目標の形成にも大きく寄与しました。

ジュニア大使訪問団員にとってのハイライトは3泊4日のホームステイです。ホストファミリーとの初対面である対面式では不安そうな表情と、何を話しているのかわからずこちない笑顔を浮かべる団員たち。団長や随員にすぎると目しながら各家庭に移動をしていきました。しかし、翌日には一転、すっかり打ち解けてホストファミリーと元気よく登校し、きらきらと目を輝かせながら、昨夜の出来事を話す様子に、たった1晩で、1回も2回も成長したことが感じられます。

夢のような4日間を過ごし、別れの朝。「離れたくない」、「また、絶対に会おうね!」と堪えきれずに泣く団員やホストファミリーを見ていると、たった4日間でどれほど心温まる交流をしたのかが一目でわかります。ホームステイで経験したアメリカの家庭の温もり、心に焼き付いた思い出が、「もう1度来たい!」、「次に会うときはもっとたくさんのお話をしたい!」という思いに変わり、団員たちは将来に向けて新しい一歩を大きく踏み出すのです。

「ジュニア大使訪問団派遣事業」は、1990年にスタートした、滝川市内の中高生が姉妹都市であるス市を訪問し、相互交流を行うことで「地域の明日を担う青少年に国際的な視野を持ってもらい、大きく成長してもらうための壮大な人材育成計画」です。

1991年から2005年まではス市を中心に訪問していましたが、2006年からは隣町のロ町もあわせて訪問するようになり、2008年10月、同町との間で「滝川市・ロ町教育交流促進宣言書」に調印を行い、本格的に交流を始めました。

これまでにス市を訪問した学生はのべ180名にものぼり、現地の学生と心温まる交流を行い、一



ホストファミリーに
よさこい指導を行うジュニア大使



ホストファミリーとの
別れを惜しむ中高生ら

生の思い出とかげがえのない友人や家族を作り、帰国しました。そしてその多くがこれまでに見向きもなかったことに興味を抱くようになり、自分の世界を広げています。

ジュニア大使訪問団から始まった交流は、年々その輪を広げ、今年また新しい関係を築きました。

ス市との姉妹都市提携20年目を記念し、2012年10月2日、前田康吉滝川市長と水口典一滝川市議会議長、サーノス市長との間で「姉妹都市提携20年記念滝川市・ス市姉妹都市交流促進宣言」、10月3日にポール口町長代理との間で「滝川市・ロ町友好交流促進宣言」に調印し、今後も未永く交流を続け、両市・町の将来を担う人材育成に寄与していくことを確認しました。



「姉妹都市提携20年記念滝川市・ス市姉妹都市交流促進宣言」調印式

また、同じく10月2日、滝川市にある國學院大學北海道短期大学の田村弘学長とスプリングフィールド大学フリン学長が、同学部が英語と健康体育を学ぶために派遣された12名の学生が見守る中、「國學院大學北海道短期大学部・スプリングフィールド大学協定書」に調印しました。



國學院大學北海道短期大学部とスプリングフィールド大学との調印式

全国の自治体財政は厳しく、姉妹都市交流や国際交流関連事業が大幅に縮小されている昨今にもかかわらず、関係者の地道な努力により、私たちの交流は無事20年目を迎えました。それは、両市民の思いが形になった結果ということはもちろん、マ州・北海道協会会長のスールト氏をはじめとする関係者の皆様の多大なるご尽力があつてのことです。

今、滝川市内はもちろん、現地においてもロングメドール高校やスプリングフィールド大学などこの交流事業を支える人の輪はどんどんひろがっています。遠く離れた土地の文化を知ること、多くの人が改めて自分たちの文化を見つめ直し、そして新たな視点でそれぞれの道を作っています。これまでの交流の礎を守りつつ、交流の輪を広げ、次の20年を両市民とともに築いていきたいです。

(滝川市総務部国際課)

新企画 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ・三笠歴史探訪コースのご案内

日時 平成25年6月2日(日) 8:00 出発 ~ 17:00 帰着

コース 札幌駅北口 ~ (高速道路) 三笠市ヘークロフォード公園(旧幌内太駅舎) - 三笠鉄道記念館 旧幌内炭鉱跡(音羽坑口・立坑) - <昼食会> - 三笠市博物館 三笠山(観音山)三十三観音巡りー桂沢湖 山崎ワイナリーなど、開拓使時代の小樽・幌内鉄道と幌内炭鉱の歴史巡りです(現地案内者予定、コース未確定・順不同) ~ (高速道路) ~ 札幌帰着

参加費 5,500円程度(マイクロバス交通費、入館料、昼食代、資料・写真代など)

* 別紙「参加者募集要項」により、お申込みお待ちしております。

事務局短信

平成 25 年度 理事会 総会 及び ミニコンサート 予定

平成 25 年 4 月 23 日(火)午後、K K R ホテル札幌 3 階会議室「エルム」で、今年度理事会(午後 2:00~2:50)・総会(3:10~4:00)を開催します。理事会・総会は、平成 24 年度事業報告・一般会計決算報告、平成 25 年度事業計画・一般会計予算案などを議題とします。予算がきわめてきびしい状況にあり、一層の経費節減と事業縮小を強いられています。

また、ミニコンサート(2:50~3:10)も予定しています。今回は、道内外でクラシックからポプラー・ジャズに至るレパートリーで幅広い活動をしている杉田知子さんのヴァイオリン演奏をお楽しみいただきます。杉田さんは、特に身障者施設、介護施設、病院、学校、幼稚園などの訪問演奏を積極的になさっています。皆様のご出席をお待ちしています。

新年度 マサチューセッツ州からの訪問団などの来札予定について

2013 年は奇数年ですので、大きな訪問団の来訪予定はありません。今のところ、コンコードカールハイランド高校グループのコーディネーターをしておられる、ディヴィッド・ナレンバーグ先生が、7 月 29 日(月)~31 日(水)視察打合せのため来札予定です。

インターナショナル・ボストン・シーフード・ショー 2013 の事業概要 詳細は、次号に掲載!

「International Boston Seafood Show」(通称 IBSS)は、北米最大の水産物専門展示商談会で、世界各国から 100 社を超える出展者があり、水産物・水産加工品の生産者にとっては、海外への販路拡大の絶好の機会といわれます。今年は、3 月 10 日(日)~12 日(火)の 3 日間<13 日(水)意見交流会実施>、ボストン市で開催されます。北海道からはじめて参加することとなり、道庁経済部経営支援局国際経済室が窓口となって、参加出展をすすめています。 <現在まだ、実施ご紹介原稿が書けません。>

平成 25 年度の事業(イベント)について

国際交流ランチセミナー 平成 13 年度(2001 年)から、毎年 3 回、多国籍の外国人ゲストを多数お招きして、国際交流や異文化理解の楽しい昼食会として実施してきました。これまで 34 回実施しています。札幌・小樽の各大学留学生や札幌在住の外国人、またマサチューセッツ州からの来札訪問団をゲストとしてお迎えしています。今年度(24 年度)第 2 回は中止となりましたが、第 3 回(ひなまつり)は 3 月 3 日(日)実施いたしました。新年度(平成 25 年度)も継続実施の予定です。追って詳細ご案内いたします。「北海道・マサチューセッツ協会」のホームページもご覧下さい。

北海道を知る歴史発見の旅シリーズ 「北海道を知る歴史発見の旅」は、平成 14 年度(2002 年)~平成 22 年度(2010 年)の 9 年間、35 回実施。約 700 名の方々が参加されました。札幌圏のコースは、一応終了。毎回編集した「歴史資料集」も、貴重な財産となっています。平成 23 年度は、「函館・七飯歴史探訪コース」(6 月 4 日-5 日)・「小樽歴史探訪コース」(9 月 11 日)を実施しました。平成 24 年度のイベントはマサチューセッツ州からのたくさんの訪問団をお迎えしましたので中止しました。

平成 25 年度については、「三笠歴史探訪コース」(6 月 2 日)実施の予定です。別紙「募集要項」により、お申込みをお待ちしています。、

新入会員紹介 (2012 年 12 月 10 日~): 敬称略

<個人会員> 小敷澤 幸子



北海学園大学

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

[大学院]

- 経済学研究科／経済政策専攻
- 経営学研究科／経営学専攻
- 法学研究科／法律学専攻・政治学専攻
- 文学研究科／日本文化専攻・英米文化専攻
- 工学研究科／建設工学専攻・電子情報工学専攻
- 法務研究科／法務専攻
(法科大学院)

[大学]

- 経済学部(1部・2部)／経済学科・地域経済学科
- 経営学部(1部)／経営学科・経営情報学科
(2部)／経営学科
- 法学部(1部・2部)／法律学科・政治学科
- 人文学部(1部・2部)／日本文化学科・英米文化学科
- 工学部(1部)／社会環境工学科・建築学科・
電子情報工学科

北海商科大学

HOKKAI SCHOOL OF COMMERCE

[大学院]

- 商学研究科／ビジネス専攻

[大学]

- 商学部／商学科・観光産業学科

北海高等学校

HOKKAI HIGH SCHOOL

- 普通科／特別進学コース・進学コース

北海学園札幌高等学校

HOKKAI-GAKUEN SAPPORO HIGH SCHOOL

- 普通科／特進コース・進学コース

学校法人北海学園 理事長 森本正夫

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 TEL(011)841-1161(代表) <http://www.hokkai-t-u.ac.jp>